

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年7月）

《今月のトピックス》

- 百日咳の報告がさらに増加しており、2018年の全数調査開始以降、月間報告数で最多です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増加しています。
- 麻しんは国内感染例の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生しており、引き続き注意が必要です。
- 伝染性紅斑の報告数が高い値で推移しています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2025年6月23日～7月20日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	23件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
腸チフス	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
E型肝炎	3件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	5件	梅毒	30件
アメーバ赤痢	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件	百日咳	266件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	麻しん	3件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	9件		

1. **腸管出血性大腸菌感染症:** 10歳代～70歳代で、O血清群は、O157が17件、O26が1件、O91が1件、O103が1件、O不明が3件です。経口感染と推定される報告が12件、感染経路等不明が11件です。
2. **腸チフス:** 30代で、接触感染と推定されます。
3. **E型肝炎:** 50歳代～70歳代で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明が1件です。
4. **レジオネラ症:** 60歳代～100歳代で、肺炎型は3件、ポンティアック熱型は2件です。水系感染と推定される報告が1件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明が3件です。
5. **アメーバ赤痢:** 60歳代で、経口感染と推定されます。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症:** 60歳代で、感染経路等不明です。
7. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症:** 60歳代～80歳代で、血清型はB群が2件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、尿路感染症と推定される報告が1件、その他と推定される報告が1件です。
8. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):** 20歳代～50歳代で、AIDSが4件、無症状病原体保有者が5件です。感染経路は性的接触と推定される報告が8件(異性間2件、同性間4件、詳細不明2件)、感染経路不明が1件です。
9. **侵襲性髄膜炎菌感染症:** 50歳代(ワクチン接種歴無)で、感染経路等は不明です。
10. **侵襲性肺炎球菌感染症:** 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明2件)で、感染経路がその他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
11. **水痘(入院例に限る):** 70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等は不明です。
12. **梅毒:** 10歳未満～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期12件、早期顕症梅毒Ⅱ期15件、先天梅毒1件、無症状病原体保有者2件です。性的接触による感染と推定される報告が28件(異性間19件、同性間1件、詳細不明8件)、母子感染1件、感染経路等不明が1件です。
13. **播種性クリプトコックス症:** 80歳代で、鳥類の糞などの接触と免疫不全による感染と推定されています。
14. **百日咳:** 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴5回2件、4回130件、3回2件、2回5件、1回2件、無3件、不明122件)で、家族内感染及び周囲の流行が推定される報告が2件、家族内感染と推定される報告が30件、周囲の流行と推定される報告が47件、感染経路等不明の報告が187件です。
15. **麻しん:** 10歳未満～40歳代(ワクチン接種歴1回1件、無1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明が1件です。推定感染地域は、国内が2件、不明が1件です。

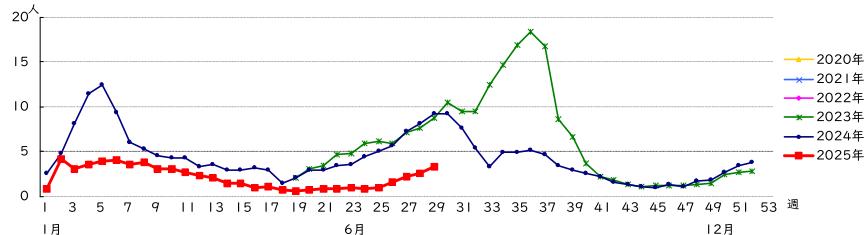
◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39 医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2025年第26週	6月23日～6月29日
第27週	6月30日～7月6日
第28週	7月7日～7月13日
第29週	7月14日～7月20日

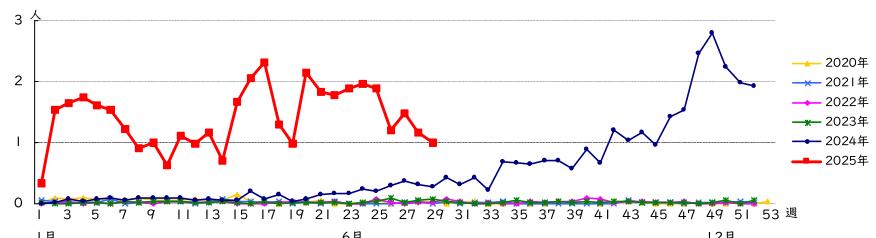
1 新型コロナウイルス感染症

2025年第3週(1月13日～1月19日)以降、緩やかな減少傾向から横ばいの状態が続きましたが、第25週(6月16日～6月22日)以降、増加に転じています。第29週は3.29です。



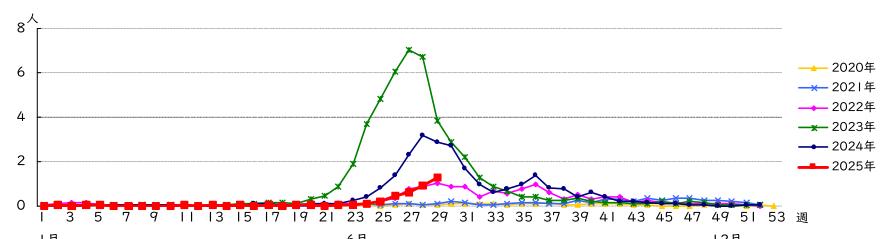
2 伝染性紅斑

2024年第49週(12月2日～12月8日)にピークを迎えましたが、2025年第2週(1月6日～1月12日)以降も例年よりも高い値で推移しています。第29週は1.00です。



3 ヘルパンギーナ

2025年第24週(6月9日～6月15日)以降増加傾向です。第29週は1.24です。



4 性感染症(2025年6月)

性器クラミジア感染症	男性:38件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:13件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:26件	女性:1件	淋菌感染症	男性:11件	女性:4件

5 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.25	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.25	0.25	1.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.25	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2025年6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2025年第26週～第29週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点134件、小児科定点6件、基幹定点2件でした。

8月6日現在、表に示した各種ウイルスの分離14株と遺伝子67件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025年第26週～第29週)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状等		咽頭 結膜熱	無菌性 髄膜炎	手足 口病	耳下 腺炎	発疹
	上 気 道 炎	下 気 道 炎					
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	3						
	11						
インフルエンザウイルス B型 (ピクトリア系統)	1						
	—						
パラインフルエンザウイルス 2型	1	3					
	—	—					
パラインフルエンザウイルス 3型	—	—	—				
	7	4		1			
パラインフルエンザウイルス 4型	—	—					
	2	2					
アデノウイルス 1型	1		1				
	—		—				
アデノウイルス 2型	1		1				
	—		—				
アデノウイルス 3型	1						
	1						
アデノウイルス 5型	1						
	1						
アデノウイルス 31型	—						
	1						
アデノウイルス 型未同定	—						
	3						
ライノウイルス	—	—		—	—		
	18	4			1	1	
RSウイルス	—						
	3						
コクサッキーウイルス A4型	—						
	1						
コクサッキーウイルス A10型	—						
	1						
エコーワイルス 18型	—	—					—
	3	1					1
合 計	9	3	2	—	—	—	—
	52	11	—	1	1	1	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【微生物検査研究課 ウィルス担当】

〈細菌検査〉

2025年第26週～第29週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症18件、チフス菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、サルモネラ食中毒1件でした。基幹定点医療機関からの検査依頼はサルモネラ症2件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症3件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎3件、百日咳疑い1件、「ARI定点」から2件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査(2025年第26週～第29週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
腸管出血性大腸菌感染症		18	O157 : H7 VT1 VT2 (4) O157 : H7 VT2 (6) O26 : H11 VT1 (2) O8 : H+ VT2 (1) O103: H2 VT1 (1) O109 : H21 VT2 (1) O111 : H- VT1 (1) OUT: H19 VT1 VT2 (1) OUT:H- VT2 (1)
腸チフス		1	<i>Salmonella</i> Typhi (1)
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex) (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	B群溶血性レンサ球菌 NT6型 (1) B群溶血性レンサ球菌 型別不能 (1)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 20型 (1)
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	<i>Neisseria meningitidis</i> Y群 (1)
	サルモネラ食中毒	1	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O4:i:- (1)
基幹定点	サルモネラ症	2	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O4:i:- (1) <i>Salmonella</i> Enteritidis (1)
分離同定	項目	検体数	材料 同定、血清型等
保健所	レジオネラ症	3	喀痰 レジオネラ属菌培養 陰性 (3)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数 同定、血清型等
	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	3 A群溶血性レンサ球菌 T4 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (1) 培養 陰性 (1)
小児科定点	鼻咽頭ぬぐい液	百日咳疑い	1 百日咳菌遺伝子陽性(マクロライド耐性変異有), 百日咳菌培養 陰性 (1)
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数 同定、血清型等
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	2 百日咳菌遺伝子 陰性 (2) 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性 (2) A群溶血性レンサ球菌 T12 (1) 溶血性レンサ球菌 培養 陰性 (1)

【微生物検査研究課 細菌担当】